



Title	Self-reported Snoring Frequency and Incidence of Cardiovascular Disease : The Circulatory Risk in Communities Study
Author(s)	永吉, 真子
Citation	大阪大学, 2012, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/59042
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について をご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名	なが よし ま こ 永 吉 真 子
博士の専攻分野の名称	博 士 (医学)
学位記番号	第 25084 号
学位授与年月日	平成24年3月22日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 医学系研究科予防環境医学専攻
学位論文名	Self-reported Snoring Frequency and Incidence of Cardiovascular Disease:The Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS) (いびきの頻度と循環器疾患発症との関連について)
論文審査委員	(主査) 教 授 磯 博康 (副査) 教 授 的場 梁次 教 授 武田 雅俊

論 文 内 容 の 要 旨

〔 目 的 〕

睡眠呼吸障害の主症状であるいびきは、高血圧や糖尿病、高脂血症等の代謝障害を引き起こし、その後の心疾患や脳血管疾患発症とも関連することが欧米の先行研究で報告されているが、アジア人集団での報告はほとんどない。日本でもいびきの有病率は高く、いびきを含む睡眠呼吸障害と高血圧や糖尿病との関連が報告されてきているが、一般集団を対象とした疫学研究は未だ少なく、睡眠呼吸障害と循環器疾患発症との関連を縦断的に検討したものはまだない。そこで、肥満の少ないアジア人におけるいびきの循環器疾患発症リスクを明らかにするため、日本の地域住民を対象とした前向き追跡研究を実施した。

〔 方法ならびに成績 〕

地域循環器リスク研究 (CIRCS) に参加した40-69歳の住民男性2,350人と女性4,163人を対象とし、いびきの頻度 (ほぼ毎日、ときどき、なし、分からない) の聴取とその後6年間の追跡調査を行った。循環器疾患は、心筋梗塞、狭心症、心臓突然死または脳卒中とし、発症の有無は地域の循環器健診、国民健康保険のレセプト情報、救急搬送録、開業医からの報告や保健師の症例確認により把握し、電話、訪問、病院カルテ等の確認を行った。死亡についても家族と病院カルテの確認を行った。解析は、Cox比例ハザードモデルによりいびきの頻度別に循環器疾患発症の相対危険度を算出した。多変量解析では、年齢、喫煙状況、飲酒状況、調査地域、閉経状況 (女性のみ) を調整した。

追跡期間中97人 (男性56人、女性41人) が循環器疾患を発症した。多変量調整後、いびきの頻度は女性で循環器疾患発症と関連したが、男性では関連しなかった。そのハザード比 (95%信頼区間) はときどきいびきをかく女性で0.9 (0.4-2.0)、毎日いびきをかく女性で2.5 (1.0-6.1) であり、男性ではそれぞれ0.7 (0.3-1.3)、1.0 (0.5-2.1) であった。さらにBMI調整後、女性ではその関連が減弱したが、傾向は同様であった。そのハザード比 (95%信頼区間) はそれぞれ0.9 (0.4-1.9)、2.1 (0.9-5.4) であった。

〔 総 括 〕

よって、日本女性においていびきは循環器疾患発症と関連し、過体重であることが一部その関連を介在している可能性がある。

論文審査の結果の要旨

いびきと循環器疾患との関連について欧米の先行研究で報告されているが、アジア人集団での報告はほとんどない。地域循環器リスク研究（CIRCS）に参加した40-69歳の住民男性2,350人と女性4,163人を対象とし、いびきの頻度の聴取とその後6年間の追跡調査を行った。追跡期間中97人(男性56人、女性41人)が循環器疾患（心筋梗塞、狭心症、心臓突然死、脳卒中）を発症した。年齢、喫煙状況、飲酒状況、調査地域、閉経状況（女性のみ）を調整後、いびきをほぼ毎日かく女性で循環器疾患の発症リスクが2.5倍高いことが明らかとなった。しかしながら、肥満度（BMI）を調整後に関連が減弱したことから、過体重がいびきと循環器疾患発症との関連の上流に位置する可能性が示された。これらの結果は、日本の一般住民を対象としていびきと循環器疾患発症との関連を示した初めての研究であり、学位の授与に値すると考えられる。